

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC-NEWS No.118 号発行

塩化ビニル環境対策協議会

■随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕（53）最終回

木下 清隆

■トピックス

◇PVC-NEWS No.118 号発行

塩化ビニル環境対策協議会

塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は、PVC NEWS No.118 号を発行しました。本誌では【医療・福祉と塩ビ】をテーマに PTP シート（おくすりシート、塩ビ製）に焦点を絞り、その製造から回収、リサイクルまでをご紹介します。また、福祉の世界で活躍する塩ビ製品／義手・義足もご紹介。

以下、特集、リサイクルの現場から、インフォメーションの記事を紹介します。

特集①「最高水準の品質で医療分野を支える、住友ベークライトの PTP シート」

（住友ベークライト株式会社）

PTP シートは医療の維持・発展を下支えしている大切な包装資材です。日常生活で頻りに使用されている製品ではありますが、原料に塩ビが使用されていることや、目には見えない様々な優れた機能があることは、あまり知られていません。

今回は、住友ベークライト株式会社が製造する医薬品用 PTP シートの構造や性能について、医薬品包装営業部長 堤氏、東日本グループリーダー 中山氏にお話を伺いました。



特集②「テラサイクルジャパン 日本初のおくすりシートのリサイクル」

（テラサイクルジャパン合同会社）



テラサイクルジャパン合同会社が掲げる「捨てるという概念を捨てよう（Eliminating the Idea of Waste®）」という企業メッセージには、循環型社会の実現のため、あらゆる分野で再利用、再資源化するアイデアを考えていくという意味が込められています。今回、紹介する「おくすりシート リサイクルプログラム」は第一三共ヘルスケア株式会社が主催し、テラサイクルジャパン合同会社の協力のもと、



使用済みのおくすりシート（PTPシート）を回収・リサイクルする取り組みです。テラサイクルジャパン合同会社代表 エリック・カワバタ氏にお話を伺いました。

特集③「利用者の気持ちに寄り添った義肢づくり」（株式会社 佐藤技研）

株式会社佐藤技研では、事故や病気で欠損してしまった身体の一部を補う義手・義足を製作。義肢装具士や熟練した技術者が利用者の患部や使用目的に合わせた最適な義肢を提供しています。今回は義肢装具士 佐藤氏に、塩ビ素材で作られている義手の数々を紹介していただきながら、製品づくりへの思いを伺いました。



リサイクルの現場

「松田産業と大同樹脂が連携し、PTPシートのマテリアルリサイクルを開始」

（松田産業株式会社）

PTPシートのリサイクルプラントが2023年4月から、岐阜県にある松田産業株式会社の関第2工場で稼働予定です。大同樹脂(株)が開発したPTPシートをアルミと樹脂に分離する高い技術を活用し、これまで困難だと言われていたPTPシートのリサイクル事業が始動します。

本事業で連携して更なる技術開発とマテリアルリサイクルを推進している松田産業株式会社 ソリューション営業部 鯨井課長と大根田氏、村山氏、そして、大同樹脂株式会社 内田監査役にお話を伺いました。



インフォメーション①

「ウェルダー加工をはじめとする高い技術力の株式会社モリシタ」（株式会社モリシタ）



高周波ウェルダー加工は、電磁波を用いて素材同士を溶かし、加圧と冷却によって溶着する技術。塩ビ製のシートや合成皮革に代表される誘電性の熱可塑性樹脂（熱により変形する樹脂）に、高周波（電磁波の一種）を照射。分子運動によって発生する内部からの熱によって溶着部を溶かして繋ぎ合わせます。

糸を使う縫製や表面加熱によるヒートシールとは異なり、樹脂を分子レベルで繋ぎ合わせるため、溶

着強度が非常に高いのが特徴です。今回は、株式会社モリシタ 森下取締役役に高周波ウェルダ加工をはじめとする塩ビ加工についてお話を伺いました。

また、別ページで高周波発熱の原理も分かりやすく解説しています。

インフォメーション②「産学連携アップサイクルプロジェクト「カンボウプラスとSDGs」」 (文化ファッション大学院大学、カンボウプラス株式会社)

日本初のファッション分野の専門職大学院である文化ファッション大学院大学（東京都、BFGU）とカンボウプラス株式会社が産学協同プロジェクトを開催。「素材本来の機能性を活かしたまま新しく生まれ変わらせる。廃材に新たな命を。生活に彩りを」というコンセプトのもと、学生が作品を発表しました。

今回は BFGU 加藤教授、久保教授、小泉助教とカンボウプラス株式会社 松崎氏（東京支店長）、松本氏（重布部）に、アップサイクルプロジェクト「カンボウプラスとSDGs」についてお話を伺いました。



また、広報日よりでは「エコプロ 2022」（12/5~7、東京ビックサイト）を紹介しました。

今回は【医療福祉と塩ビ】をテーマとして、PTP シートの製造から回収、リサイクルまでを一気通貫で取材しました。取材を通して各企業のリサイクルに向けた強い思いを感じることができ、今後、PTP シートのリサイクルは確実に進捗するものと確信しています。また、(株)佐藤技研の義手・義足の利用者に寄り添う姿勢には頭の下がる思いです。より快適に利用者が過ごせるよう、更なる新製品の開発に期待します。

一方、(株)モリシタの高いウェルダ加工技術を活かした製品作りへのこだわりが良い製品を生んでいること、塩ビ製品の将来性を垣間見た思いです（編集後記より）。

私たちの生活を支えている塩ビが環境・社会に貢献している情報を引き続きお届けしたいと思います。PVC NEWS のご講読（無料）を希望される方は、下記メールアドレスまで、送付先・電話番号・希望部数をご連絡下さい。よろしくお願ひします。

info@vec.gr.jp

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕（53）最終回

木下 清隆

<前回とのつながり>

素戔嗚尊を生んだイザナギ・イザナミについて、前回、津田左右吉と岡田精二氏の見解を紹介して、その誕生時期等を検討してきたが、今回は、素戔嗚尊の誕生問題等を検討し、一応の結論を導いた。

以上に検討したような内容は、これから進める論議の重要な基礎的事項を提供するものであるが、取り敢えずはこれらを前提として、素戔嗚尊がいつ誕生したのかを改めて考えてみることにする。文武朝になって『日本書紀』の神代を担当した、かなり異なった用語癖のある人物は幾つかの史料を手にしてはいたはずである。それは、その後『古事記』として世に出されるものの原本となった『原古事記』とでもいうべき史料、更に原古事記がベースにした『古事記原典』とでもいうべき史料、古事記原典が参考にした『帝紀・旧辞』等である。ここで問題となるのは、『古事記』『日本書紀』に登場するイザナギ・イザナミと素戔嗚尊とがこれらの史料のどこで登場したかである。考え方として、

- a. イザナギ・イザナミの二神と素戔嗚尊の登場時期は異なる。
- b. 三神とも同時に登場する。

の二案が現実的には考えられるが、この選択問題に関してはこれまでの論議から、一応 a と想定される。しかし決め手を欠いているので、『天孫降臨』の場面から天照大神の登場を追い、そこから本問題を解くことにする。

【古事記】（次ぎの記述の順序は、天孫降臨譚の流れに沿っている）

- 天照大御神は「豊葦原の国は、我が子天忍穗耳命が治める国である」と述べ、御子を天降りさせた。しかし、御子は、豊葦原国は甚だ騒がしいと行って戻ってきた。
- 高御産巢日神たかみむすひのかみ・天照大御神は、八百万の神を天の安河の河原に集めて相談した。
- 高御産巢日神・天照大御神は諸々の神に「葦原中国に遣わしたあめのほひ天菩比神から復命がない。次ぎに誰を遣わしたら良いか」と相談した。
- 天照大御神・高御産巢日神は諸々の神に「天若日子から久しく復命がない。次ぎに誰を遣わしたらよいか」と相談した。
- 天若日子は雉を射殺したが、その矢は、天の安河の河原に座す天照大御神・高木神の御所にまで届いた。

以上は天照大神と高御産巢日神とが登場する箇所だけを抜き書きしているので、全体の物語を追うことは出来ないが、二神が諸々の神々の前に登場するとき、二神の立場が徐々に変化して行くところがよく分かる。最初は高御産巢日神の方が上位にある

が、その後、天照大神が上位に立つ。要するに高天原の最高神の立場が入れ替わっている。更に高御産巢日神は高木神という、いささか軽い神名に替えられている。

なお、書紀においては、天孫降臨の場面は全て「高皇産霊尊」が一人で取り仕切っており、古事記とは明らかにその姿勢が異なっている。

このような天孫降臨譚から、素戔鳴尊、イザナギ・イザナミ問題に関しては、次のような結論を導くことが出来よう。

なお、古事記に関する書名の判別を容易にするために、A、B、C等を付した。

- ① 記紀における素戔鳴尊・天照大神の誕生は、前述したようにイザナギ・イザナミによる国生み・神生みの最後に位置し、一セットで付加的に誕生している。
- ② 古事記における高天原での天照大神の登場の仕方は、高御産巢日神に徐々に取って代わるような記述のされ方をしており、高天原の最高神は本来、高御産巢日神であったことを示している。その地位を天照大神が後から奪ったことになるが、このことは①で、天照大神の誕生が神生みの最後となっていることと符合している。
- ③ このことは『古事記原典』Aでは、高天原の最高神は高御産巢日神とされていたが、『原古事記』Bで天照大神に替えられたとみることが出来る。従って、このときに天照大神は誕生したことになる。
- ④ 日本書紀においては、始めから高皇産霊尊が最高神として登場してくることから、書紀は『古事記原典』Aを参考にして、この箇所の編纂をしたとみられる。
- ⑤ 天照大神が『原古事記』Bの編纂時に誕生したとするなら、素戔鳴尊も『原古事記』Bの中で誕生したことになるが、先の^{あまのまない}天真名井譚の検討から、素戔鳴尊の誕生は天照大神よりも遅れるといえる。従って、素戔鳴尊の誕生は『原古事記』Bの更に後の、現在の「古事記」即ち『現古事記』C編纂時に誕生した可能性が高い。
- ⑥ 天照大神が『原古事記』B、素戔鳴尊が『現古事記』Cの中で生まれたとするなら、それ以外の多くの神々は、『古事記原典』Aの中で誕生したと考えられ、これらの神々を生んだイザナギ・イザナミの二神は『古事記原典』Aの中で登場したことになる。

以上のような推論から、素戔鳴尊の誕生とイザナギ・イザナミ二神の登場時期とは異なっており、先の二択問題はaが正しいことになる。このことは、天武朝に編纂された国史を『原古事記』Bとすれば、この原古事記の編纂過程で天照大神が書き加えられ、持統朝に編纂された『現古事記』Cにおいて素戔鳴尊が生まれたことになる。更に『原古事記』Bがベースとした『古事記原典』Aとでもいべき史料の存在を先に指摘したが、これは蘇我氏の時代に編纂された国史が、それに当たるのではないかと想定されることになる。推古二十八年の条に聖徳太子と蘇我馬子が『天皇記』『国記』等の編纂を手掛けたことが出てくる。この文書は中大兄・藤原鎌足等が蘇我入鹿を襲った乙巳の変のときに、父の蝦夷が自宅に火を放ったことで、危うく灰燼に帰すところを^{いっし}拾い上げられているものである。これが、後の古事記、日本書紀の原典になったもの

とここでは想定している。

以上の論議から次のような結論を導くことができよう。

— 『古事記原典』Aの中にイザナギ・イザナミと国生み・神々の誕生は記載されていたが、天照大神と素戔嗚尊は未だ登場していなかった。この後、『原古事記』Bにおいて天照大神が登場し、更に『現古事記』Cの中で素戔嗚尊が誕生した。従って、天照大神は天武朝に誕生し、素戔嗚尊は持統朝に誕生したことになる。—

以上で、素戔嗚尊は『現古事記』C編纂時に誕生したこと、その後「熊野大神櫛御氣野命」に結び付けられたことが、一応明らかになったといえよう。



熊野本宮大社（祭神：素戔嗚尊）

(了)

<最終回のご挨拶>

今般、都合により「古代ヤマトの遠景」（番外）のメルマガ連載を、今回をもって終了とさせて頂く事と致しました。番外編以前の「古代ヤマトの遠景」時代からは、既に約二十数年が経ちますが、この間、ご愛読頂いた読者の皆様には厚く御礼申し上げます。

実は私の前編「古代ヤマトの遠景」、及び後編「番外編」は、現在、電子本として出版すべく、準備を進めているところです。前編は、少し書き換えもありますので、これまでのタイトル『古代ヤマトの遠景』から『古代倭国の真相』に替え、後編即ち（番外編）は既存の『櫛田神社考』のままで出版する予定にしております。この真相の原本が神社考になっておりますので、こちらの方は、これ迄の連載分の三倍以上の分量になる予定です。

電子本はそれなりの価格となりますので、その分、愛読者の皆様のご負担となり申し訳ありませんが、何卒ご理解頂けますようお願い申し上げます。

筆者 木下清隆

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)
「古代ヤマトの遠景」：[バックナンバー](#)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp
